

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	千葉県	市町村名	成田市	委員会名	成田市教育委員会
派遣日	令和5年10月24日(火曜日) 13:30~15:00 13:25 オンライン接続 13:30 開会行事 13:35~14:35 ご講義 14:35~14:40 質疑応答 14:40 謝辞・講師退室 14:40~15:00 情報交換・諸連絡・閉会行事				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 派遣 / <u>遠隔</u>				
派遣場所	オンラインによる研修 のため、講師は勤務地より参加 (宮城教育大学教育学部)				
アドバイザー氏名	市瀬 智紀				
相談者	・成田市教育委員会 教育指導課 ・成田市内小、中、義務教育学校 日本語指導担当者 (日本語教育補助員、日本語指導教員)				
相談内容	○日本語指導の在り方について、系統的な指導・理論にもとづいた指導方法について、研修を深めたい。 ・絵カードや ICT 活用など、各補助員・教員が試行錯誤をしながら日本語支援・指導にあたっている。昨年までに本市で行ってきた研修会ではその指導方法を共有することで新たな手法を学ぶ機会になったが、「外国にルーツをもつ子どもたちが、どのようなメカニズムで日本語を習得していくのか」という点について、ご教授いただきたい。				
派遣者からの指導助言内容	・第二言語の習得には、会話力の習得と、学習言語能力の習得がある。会話力は幼少期から一定レベルに発達するのに対し、学習言語能力はゆるやかに発達していく。小学校高学年以降においては、学習言語と認知力が確立していれば、母語に置き換えて理解することができる。 ・教科につながる日本語指導にあたっては、認知必要度を学習者に合わせる方法を取り入れていくことが効果的である。(言い換え、視覚化、例示、対比、明示、簡略化、整理、補足、関連付け、知識の呼び起こし 等) ICT機器の活用などの方法も考えられる。 ・教科の指導においては、その単元の目標を理解した上で、その目標を達成するために必要な日本語の指導目標を考える。(例:理科の豆電球の実験では「直列」「並列」などの語句の習得、国語科の物語文では、心情の変化を追いかけるために必要な語句の習得) また、メタ認知力を育てるために、学習後に自分の頭の中で振り返る機会を設けるとよい。 ・母語、母文化の習得により、母語に置き換えることによる学習言語の習得を促すことができるとともに、本人のアイデンティティの確立にもつながる。「継承語」と				

(様式3)

	いう位置付けで母語、母文化を尊重し、習得を援助することが望ましい。
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none">・単に日本語の技能を身に付けるのではなく、会話力と学習言語能力の違いをとらえ、認知力を発達させるための指導の工夫が必要であることがわかった。・教科指導においては、単元の目標を理解し、その単元の習得に必要な要素を見出したうえで指導にあたるとともに、メタ認知力を育てるために、学習を振り返りアウトプットさせることが重要であることが分かった。・日本語指導にのみ注力するのではなく、その子もつアイデンティティを大切にしていきながら、長期的なビジョンで支援をしていけるよう、特別の教育課程を編成し、持続的に指導をしていく体制づくりが必要である。・ICTを活用した日本語支援ができるよう、各指導担当者がICT機器を活用できる環境を整備していきたい。

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。